

名家連ニュース

令和2年9月21日(月)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.753号

連続講座 精神疾患の理解と対応 2 第4回

本間貴宣さんによる連続講座が、9月15日(火)、総合社会福祉会館7階大会議室で開催され、参加者は45名でした。今回はYさん(20代、女性)の、リカバリーストーリーを聴きました。親を捨てるという、家族会にとっては衝撃的なお話を、パワーポイントを使って理路整然と語られました。

Yさんのリカバリーストーリー：

これまで：高卒後、看護専門学校に入学し、2年生の時に発症した。障害者支援施設で自律訓練(生活訓練)に通った。父子二人暮らしから、グループホームに移った。ピアサポーターに登録し、ピアスタッフの会を設立した。結婚を機に親を捨てた。精神福祉の仕事を辞めて、スイミングコーチに転職した。今はそれも辞めて、事業者登録をしてネットショップをしている。

親を捨てられなかった理由：心も体も支配されていた。力がないから反抗も出来ない。勝てないと思い、逃げようとしめない。外に出る勇気がないから、世間知らずになり、救いはない、今の方がままだと思う。

伝えたいこと：潔癖症な家族ほど害のある存在はない。病気という個性を排除しようとする。障害は不幸なことだと決めつける。家族からの愛情に期待が持てなくなった人には自由をあげた方が良い。過干渉をやめること。同じ診断名でも、同じ症状の人はこの世にひとりもない。病名でくくらないで欲しい。病気を理解するより、その人を理解する方が大切である。

本間さんの質問(Q)とその答え(A)：

Q：一番苦しかったときの話は、皆さん話されませんが、Yさんはどんな状態でした？—A：被害妄想がひどく、周りから臭いと思われていると思って、一日3回お風呂に入っていた。

Q：一番頑張ったなと思うところは？—A：専門学校を止めたこと。ピアスタッフをはじめたこと。それをやめたこと。

Q：干渉と過干渉の違いは？—A：相手の意見を聞かないのが過干渉。本人が考える力が弱まっているときは、情報提供だけにしたい。

参加者の感想：

結婚生活にエールを。頑張れ／親を捨てるにびっくり。／病の理解よりその人の理解が重要。愛より自由を与えて！が印象的でした。

参加者の質問(Q)とその答え(A)：

Q：父親から自立できた一番の理由は？—A：彼が全財産の3万円をはたいて指輪を買ってくれた。父よりも愛を選んだ。Q：今幸せですか？—A：はい。夫婦げんかの原因は、もっと自由が欲しい。Q：母子家庭で、息子とうまくやっていくことが難しい。親も自由でありたい。—A：子供のために人生を使うのは止めた方が良い。Q：回復の原動力は？—A：公的福祉制度と友人の存在。ツイッターでつぶやくと、全国各地の人たちから、いろんなアドバイスをもらい、楽になった。

本間さんのまとめ：

今回も本人の回復力を支援者が邪魔しないことが大切だという例でした。支援者の想像を超えた回復の力があるのだということを幾度も見せてもらいました。(講座内容紹介：担当理事/広瀬)